

「演劇ワークショップ」を全ての小学校一年生で実施！
～子どもたちに非認知能力（やり抜く力・自制心・協働性）を～

第2回 「何をやっているの？ あてっこゲーム」

① テープを貼って舞台づくり



○「お手伝いしてくれる人？」
一つのものづくりをみんな
で体験します。

○ファシリテーターの動きや
表情を興味津々で観ます。

○「何をしていたの？」
「どこで分かった？」
「面白かったところは？」

② デモンストレーションと答え合わせ



③ グループでの
話し合いと練習



○見ている人に伝わるように「動き」を考えます。

○自分の考えとみんなの考えをすり合わせると、
面白いアイデアが生まれることも…。



○「どうすれば伝わるかな？」
何回も話し合っては、練習を繰り返します。

④ 答え合わせとフィードバック



○「答えを言いたい」というのは、「友だちと
関わりたい」「友だちを分かりたい」という
心の現れ。

○「答えを当ててもらえた」ことは、「自分た
ちのことを分かってくれた」ことであり、
喜びも倍増！

★ファシリテーターが具体的な言葉で「褒め
て」「認めて」「一緒に喜ぶ」ことで子ども
たちの「自分は大切な存在なんだ」「自分は
役に立っている」という思いを高めます。

⑤ グループごとに発表



「緊張したけど、
やってみたらよかった」

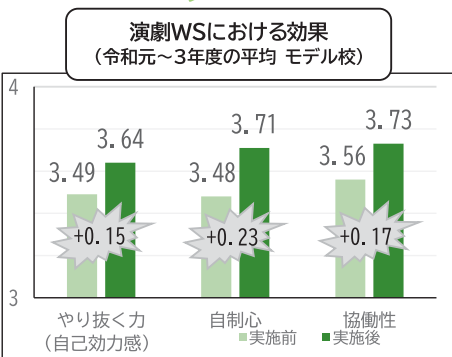
「相談しても決まら
なかったけど、最後
までやり抜いた」

★大切なことは、うまく演じることよりも、子
どもたちの豊かな発想や課題に向き合う姿勢。
「いい失敗」をして、次の挑戦に活かすこと
も大切なこと。

※この取組の映像は豊岡市HP
「ムービーライブラリー
(豊岡市ビデオ広報)」でご覧
いただけます。▶



豊岡市の取組は効果があるの？ ～ 青山学院大学 荻宿俊文教授より～



※ 児童アンケートによる効果測定 … 4点満点

すべての授業、行事で高めることが大事！
～非認知能力を高める視点に立った取組～

非認知能力を高めるためには、日々の授業や行
事、家庭等で、「褒めて」「認めて」「一緒に喜
ぶ」関わりが欠かせません。
演劇WSのアンケートを参考に、自然学校や運
動会の成果を検証している学校もあります。

2022年
8月開催

豊岡市教育フォーラム「豊岡市における非認知能力向上の取組」

今、どのような力が求められているの？
～ 芸術文化観光専門職大学 平田学長より～

《大学入試で求められる力》

「共通テスト(一次試験)」では、主に「知識や技能」が問われます。

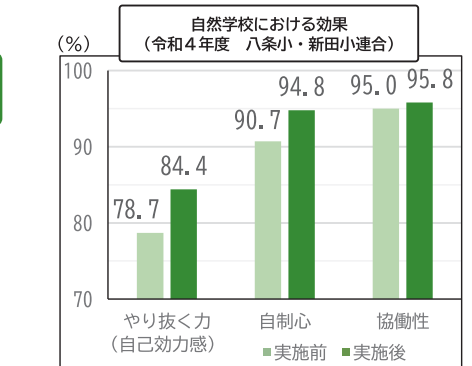
「二次試験」では「筋道を立てて考える力」「自分で考えたことを表現する力」等が問われます。

「他者と力を合わせて課題を解決する力」を問う大学も出てきています。

演劇WSは効果がある

演劇WSにより「やり抜く力(自己効力感)」「自制心」「協働性」は高まっています。

豊岡の取組は、上手な演者を育てる教育ではなく『仲間づくりのために、他者を理解する、考えをすり合わせて新しいアイデアを生み出す』ための取組です。



子どもに関わる時に気を付けていることは？
～ ファシリテーター わたなべ氏より～

「この子は〇〇な子」と決めつけないで、一緒に活動する仲間として関わります。

集団の中であっても「この子はどのようにして〇〇するの？」という一人一人の行動の理由を探します。

その子の「できる」ことを見つけ、「何ができているのか」「何をしようとしているのか」を考えて、一人一人に接します。

☆非認知能力を育てるには、家庭での関わりも重要になります。結果よりも、頑張っている姿を「褒めて」「認めて」「一緒に喜んで」みませんか？